

## トピックス

### 大会運営に貢献 地元高校生がボランティア



▲大会関係者から絶賛された地元高校生による「コートスイーパー」。右上はコートに向かい一礼をする様子

バスケットボール会場のさいたまスーパーアリーナでは、試合中にコートをもップで拭くボランティアの高校生「コートスイーパー」が陰で大会を支えた。

ゴール下で待機し、選手の汗で滑りやすくなった床面を見つけると、一礼して直ちにコートへ入り拭き取り、一礼してゴール下へ戻る。その俊敏なパフォーマンスと礼儀正しさが参加各国の選手や関係者スタッフから絶賛された。

大宮北高等学校・男子バスケットボール部の皆さんは「本来なら昨年、先輩たちがこの役割を果たさはずでした」と複雑な心境を語ったが、1年間延期となった大会で「選手の動き、迫力あるプレーを間近で見ることができた」「貴重な体験ができて光栄」と、大役を果たした“一生に一度”の夏を振り返った。



▲コートスイーパーで活躍した大宮北高等学校男子バスケットボール部の皆さん

### 話題のバスケットロボ「CUE」が降臨



▲先進技術を駆使したAIバスケットロボ「CUE」▶



写真：Newspxpl/アフロ

「どこからでもシュートを打てる」をコンセプトに最新の科学技術を駆使して開発された世界初のバスケットボールロボット「CUE」。国内大手自動車メーカーが開発した、サポートなしで自らボールを掴み、シュートするAIロボットだ。

さいたまスーパーアリーナで開催されたオリンピック、バスケットボールのハーフタイムに登場した最新型の「CUE」は、スリーポイントシュートを華麗に披露し、海外メディアやSNSを通じて、その存在を埼玉から全世界へ存分にアピールした。

# SAITAMA

TOKYO 2020 Olympic and Paralympic Games

# Part 3

## 東京2020聖火リレー



オリンピック聖火リレー

オリンピックトーチ



パラリンピック聖火リレー

パラリンピックトーチ

# 東京2020オリンピック聖火リレー

274人がつなぎ県内を完走

2021年3月25日に福島県のJヴィレッジを出発した東京2020オリンピック聖火リレーは、121日間(移動日を含む)をかけて47都道府県を巡り、7月23日の開会式に国立競技場の聖火台に点火された。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、本県を含む20都道府県で公道での聖火リレーの一部または全部が中止となった。

コンセプト

## Hope Lights Our Way

希望の道をつなごう。

スケジュール

📍 福島 2021年3月25~27日	
② 栃木 3/28~29	②⑤ 広島 5/17~18
③ 群馬 30~31	②⑥ 岡山 19~20
④ 長野 4/1~2	②⑦ 鳥取 21~22
⑤ 岐阜 3~4	②⑧ 兵庫 23~24
⑥ 愛知 5~6	②⑨ 京都 25~26
⑦ 三重 7~8	②⑩ 滋賀 27~28
⑧ 和歌山 9~10	②⑪ 福井 29~30
⑨ 奈良 11~12	②⑫ 石川 31~6/1
⑩ 大阪 13~14	③⑬ 富山 2~3
⑪ 徳島 15~16	③⑭ 新潟 4~5
⑫ 香川 17~18	③⑮ 山形 6~7
⑬ 高知 19~20	③⑯ 秋田 8~9
⑭ 愛媛 21~22	③⑰ 青森 10~11
⑮ 大分 23~24	③⑱ 北海道 13~14
⑯ 宮崎 25~26	④⑲ 岩手 16~18
⑰ 鹿児島 27~28	④⑳ 宮城 19~21
⑱ 沖縄 5/1~2	④㉑ 静岡 23~25
⑲ 熊本 5~6	④㉒ 山梨 26~27
⑳ 長崎 7~8	④㉓ 神奈川 28~30
㉑ 佐賀 9~10	④㉔ 千葉 7/1~3
㉒ 福岡 11~12	④㉕ 茨城 4~5
㉓ 山口 13~14	④㉖ 埼玉 6~8
㉔ 鳥根 15~16	

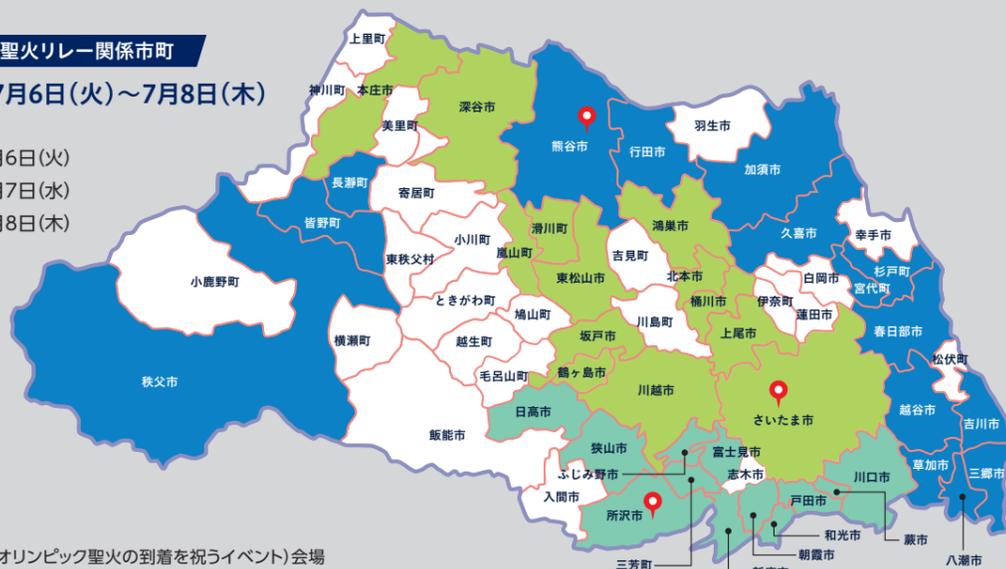
📍 東京 2021年7月9~23日

埼玉県のオリンピック聖火リレーは東京都に引き継ぐ全国46番目の日程で、7月6日(火)から7月8日(木)の3日間実施した。まん延防止等重点措置対象地域の川口市(1日目第1区間)とさいたま市(3日目最終第7区間)で公道での聖火リレーを中止したが、3日間で全国最長となる70.5kmを走行した。

県内オリンピック聖火リレー関係市町

日程:2021年7月6日(火)~7月8日(木)

- 1日目/7月6日(火)
- 2日目/7月7日(水)
- 3日目/7月8日(木)



📍 セレブレーション(オリンピック聖火の到着を祝いイベント)会場

## 1日目 7月6日(火) 第1区間

# 川口市 Kawaguchi city

●オリンピック聖火リレー川口市出発記念式



▲青木町公園聖火台前に集まった9人のランナーの皆さん。サポートランナーに予定されていた川口市内小中学生(前2列)17人とともに出発を祝った



▲左から川口市の奥ノ木信夫市長、鈴木昭重さん、大野元裕知事

埼玉県の3日間にわたる聖火リレーは、鑄物の街・川口市からスタート。新型コロナウイルス感染症拡大に伴うまん延防止等重点措置の対象地域であった、川口市での公道走行は中止となり、聖火ランナーらが記念撮影や聖火の送り出しを行う「出発記念式」が開催された。会場の青木町公園の聖火台は旧国立競技場に設置されていた聖火台の「第1号」で、鑄物の街の誇りとして長年展示されてきた。聖火台前で行われた式典には大野元裕知事や奥ノ木信夫市長が出席し、ランナー9人とともに出発を祝い、聖火を見送った。



Photo by Tokyo2020



▲父の萬之助さんと兄の文吾さんが製作に携わった東京1964大会の聖火台の前にガッツポーズをする鈴木昭重さん



▲内田剛史さん



▲平林栄子さん



▲聖火の出発を見送る聖火ランナーたち

1日目 7月6日(火) 第2区間 走行距離 1.8km 聖火ランナー 10人

# 蕨市・戸田市 Warabi city & Toda city

●スタート:地蔵の小径付近/10:23~ ●ゴール:戸田市役所入口前路上/10:49



提供:蕨市

▲地蔵の小径(蕨市)がある旧中山道を聖火が駆け抜ける。第1スロットランナーの笹淵敏子さん

蕨市は江戸時代に中山道の宿場町として栄え、その風情を感じさせる中山道本町通りが聖火リレーのコースになった。また同じくコースとなった戸田市も中山道の「戸田の渡し」で船着場として栄えた。聖火リレーは、創業150年を超える老舗煎餅屋付近からスタートし、蕨宿の本陣跡前を右手に見ながら直進。合流した国道17号を南下し右折した後、緑豊かな市役所の交差点をさらに右折するとゴールの戸田市役所へ。10人のランナーでつないだ聖火が到着した。



▲走行前のランナーや沿道に声をかけるパートナー企業の皆さん



▲区間の最終ランナーでオリンピックの浜田美咲さん



2021年2月に逝去された聖火ランナーでオリンピックの石黒昇さんのご遺族と浜田さん

提供:戸田市



第1スロットランナーの笹淵さんと蕨市の頼高英雄市長

第3区間(ドコモショップ戸田公園店駐車場) 0.3km 2人



Photo by Tokyo2020

ドコモショップ戸田公園店の駐車場敷地内でも聖火リレーを実施。写真は笑顔で聖火を運ぶ女優の浜田美波さん。非公開で実施された。



▲スタンバイする隊列の様子



提供:戸田市

▲ゴールの戸田市役所で戸田市の菅原文仁市長と浜田さん

1日目 7月6日(火) 第4区間 走行距離 4.5km 聖火ランナー 22人

# 和光市・朝霞市・新座市 Wako city & Asaka city & Niiza city

●スタート:和光市役所/12:02~ ●ゴール:栄緑道広場/13:09



▲朝霞中央公園前のケヤキ並木を走る第12スロットランナーの奥野湖々奈さん



▲和太鼓会「和光太鼓」による演奏が和光市役所に鳴り響いた

東京都に隣接する和光・朝霞・新座の3市は、武蔵野の面影を残す雑木林などが多い自然豊かな地域。和光市役所をスタートしたランナーは、旧川越街道を進み、朝霞市内へ。ケヤキ並木の朝霞中央公園前を通過しさらに進むと、東京2020大会で県内唯一のオリンピック・パラリンピック会場となった陸上自衛隊朝霞訓練場が右手に広がる。その後聖火は区間の最終ランナーが待つ新座市の栄緑道に入り、公園内の小径を抜け小中学生のサポートランナーといっしょにゴール。ミニセレブレーションで聖火の到着を祝った。



▲沿道から応援する地元朝霞の小中学生



▲第1スロットランナーの早川葵彩さんは、和光市の柴崎光子市長と笑顔でツーショット



提供:和光市

▲県立和光国際高等学校による吹奏楽演奏



Photo by Tokyo2020

▲第17スロットランナーの細沼泰成さん



▲区間の最終ランナーの虹川瑞希さんはサポートランナーとともに緑まぶしい栄緑道を通りゴールへ

## ミニセレブレーション



ゴール地点で最終ランナーの虹川さんとサポートランナーの新座市内小・中学生、新座市国際交流員、新座市イメージキャラクター「ゾウキリン」を出迎えた新座市の並木傑市長(前列右)。

1日目 7月6日(火) 第5区間 走行距離 3.5km 聖火ランナー 10人

# 日高市 Hidaka city

●スタート:高麗神社 御神門前/14:00~ ●ゴール:巾着田曼珠沙華公園内広場/14:56



▲高麗神社御神門前をスタートし参道を進む第1スロットランナーの岡野和男さん



▲高句麗時代のカラフルな衣装で聖火リレーを盛り上げた



▲参道を出たところで馬にまたがり聖火を運ぶ岡野さん



▲豊かな自然を眺めながらカワセミ街道を走る第2スロットランナーの石垣秀峻さん

約1,300年前に朝鮮半島の高句麗(こうくり)から渡来した高麗人(こまびと)がこの地で暮らすことになり、そのリーダーだった高麗王若光(こまのこきしじゃっこう)を祀った高麗神社。リレーは高麗神社御神門前からスタート。参道を抜けた一ノ鳥居の先でランナーは栗毛の馬にまたがりトーチを掲げ、真言宗の寺院・聖天院付近まで乗馬で進んだ。先導したのは、ユネスコ世界遺産に登録されている高句麗古墳群の壁画をモチーフに再現したカラフルな衣装に身を包んだ人々。静かな山村を思わせるカワセミ街道をランナーがつなぎ、日高市一の観光名所、巾着田曼珠沙華公園に。高麗川を臨む土手道で区間の最終ランナーに聖火を託した。



▲石垣さんと第3スロットランナーの戸賀崎仁さんのトーチキス



▲当時の高麗人のカラフルな衣装で歴史ロマンを演出



▲公園内の土手を絵巻物のように隊列が進む

高麗川の蛇行に沿ってU字型の地形をなす巾着田曼珠沙華公園は、秋には曼珠沙華(ヒガンバナ)が辺り一面を真っ赤に染め上げる。区間の最終ランナーは白馬にまたがり公園内を半周する形でゴールの公園広場へ到着。カラフルな衣装に身を包んだサポートランナーたちも、騎射文化になぞらえた乗馬により歴史ロマンあふれる聖火リレーを演出した。ゴール後に特設ステージで行われたミニセレブレーションでは、日高市の谷ヶ崎照雄市長が、10人でつないだ聖火の到着を祝った。



▲笑顔で巾着田入口から公園内に向かう第9スロットランナーの大室恵美里さん



▲特製の横断幕で応援



▲第9スロットランナーの大室さんから騎乗したまま聖火を受ける区間の最終ランナー中村葉子さん



▲白馬に乗りトーチを掲げる中村さん



中村さんが掲げる聖火の到着を祝う日高市の谷ヶ崎照雄市長(前列中央左)とサポートランナーの日高市内の小・中・大学生

1日目 7月6日(火) 第6区間 走行距離 2.1km 聖火ランナー 10人

# 狭山市 Sayama city



●スタート:下諏訪付近(七夕通り西端)/15:53~ ●ゴール:狭山市役所/16:19



▲第1スロットランナーの松原幹さん



オリンピックのゴルフ競技会場・霞ヶ関カンツリー倶楽部がある狭山市。中心街の下諏訪からリレーはスタート。地元の商店や事業所、市民が制作した伝統の七夕飾りで彩られる七夕通り商店街を通過した。西武新宿線の狭山市駅前(西口)を經由して、狭山市役所までがルート。市役所前のロータリーでは市民の皆さんとともに小谷野剛市長が区間の最終ランナーをお出迎え。狭山市らしく庁舎の壁面にずらりと飾られた七夕飾りの前でこの区間の聖火リレーはゴールを迎えた。



◀色鮮やかな七夕飾りの脇を走る第3スロットランナーの池澤友章さん



▲区間の最終ランナーの田口伸一さん



▲ゴール地点の狭山市役所でランナーの到着を待つ市民



▲松原さんは聖火を第2スロットランナーの飯田政巳さんにつないだ



▲ゴールは狭山市役所ロータリー。田口さんは庁舎の七夕飾りをバックに狭山市の小谷野剛市長(左)、狭山市の聖火リレーのキャッチフレーズを考えた吉野菜緒さん(右)と笑顔で記念撮影

1日目 7月6日(火) 第7区間 走行距離 2.5km 聖火ランナー 12人

# 富士見市・三芳町・ふじみ野市 Fujimi city & Miyoshi town & Fujimino city



●スタート:つるせ西ゆうゆうの丘公園/18:05~ ●ゴール:東台小学校入口交差点/18:29



▲第11スロットランナーの松岡幸雄さんと区間の最終ランナーを務めた稲荷山典子さんのトーチキスポーズ



▲出発前のセレモニーでセルビア音楽の演奏を披露



▲三芳町役場で演奏する三芳中学校吹奏楽部

市民の憩いの場、富士見市つるせ西ゆうゆうの丘公園の築山山頂からスタートした富士見市・三芳町・ふじみ野市区間。出発を祝い、出発前セレモニーでは富士見市のホストタウン相手国のセルビア共和国の歌が披露され会場を盛り上げた。公園内を一周した後は、三芳町へ。みらい通りから川越街道を西へ進み、ふじみ野市立東台小学校入口交差点付近がゴール。ふじみ野市の高畑博市長が出迎えて区間の最終ランナーの労をねぎらった。



▲第1スロットランナーの中谷奏空さん



▲第2スロットランナーの三木峻翔さん



▲富士見市の星野光弘市長(左)と三芳町の林伊佐雄町長(右)がそろって激励。中谷さんから三木さんへ聖火をつなぐ



▲ゴール後に市民の拍手にこたえる稲荷山さんとふじみ野市の高畑博市長(右)

▶ふじみ野市のゴール地点でねぎらいの太鼓の音が響いた

1日目 7月6日(火) 第8区間 走行距離 2.4km 聖火ランナー 19人

# 所沢市 Tokorozawa city



●スタート:所沢市民体育館/19:38~ ●ゴール:所沢航空発祥記念館前芝生広場/20:04



▲埼玉県の聖火リレー初日を締めくくった最終ランナーの安達阿記子さん(前列右端)と伴走したサポートランナー(所沢市内在住/パラアスリートほか)の皆さん



所沢市は「日本の航空発祥の地」として知られ、西武新宿線・航空公園駅東側には約50ヘクタールの広大な所沢航空記念公園が広がる。聖火は所沢市民体育館をスタートし、航空公園駅前交差点を左折。右手に竹林が美しい所沢市役所を見ながら、所沢市民文化センター ミューズ手前を右折してゴールの所沢航空記念公園へ。所沢航空発祥記念館前芝生広場には特設ステージやパートナーブースを設置し、セレブレーションではミニコンサートやダンスなどが披露され、埼玉県の東京2020オリンピック聖火リレー初日は無事終了した。



▲山村国際高等学校の生徒がダンスを披露



▲第1スロットランナーの見澤英一さん



▲第8スロットランナーの山本正浩さん



▲所沢市指定無形民俗文化財「重松流祭ばやし」で聖火を出迎える



▲ダンスを披露した県立杉戸高等学校ダンス部

### セレブレーション

セレブレーション会場で聖火の到着を祝った大野元裕埼玉県知事(右から2人目)、所沢市の藤本正人市長(右)と1日目の最終ランナーの安達さん



▲スタート地点で演奏する県立所沢北高等学校吹奏楽部

2日目 7月7日(水) 第1区間 走行距離 1.8km 聖火ランナー 10人

# 草加市 Soka city



●スタート:まつばら綾瀬川公園内(ダスト広場)/8:11~ ●ゴール:バス車庫付近(草加松原遊歩道北端)/8:36



▲第7スロットランナーの佐藤理子さんが草加松原のシンボル「百代橋」を渡る



▲第1スロットランナーの大高姫菜さんはサポートランナーとともに



▲第4スロットランナーの細谷好正さん

「おくのほそ道の風景地」として国の名勝に指定された「草加松原」のある草加市。市民の憩いの場でもある「まつばら綾瀬川公園」で出発式が開催され、聖火は沿道の市民の皆さんに見守られながら草加松原の遊歩道を駆け抜けた。最大の見せ場は太鼓型の歩道橋「百代橋」を渡る場面。10人のランナーがつないだ聖火は、今様草加宿石碑前でゴールした。



▲太鼓型の歩道橋「百代橋」もトーチキポイントに



▲ハーブの音がまつばら綾瀬川公園を包みスタートに華を添える

### 出発式

大高さん(後列中央)と聖火リレーの出発を祝う、草加市の浅井昌志市長(後列右)、橋本雅道埼玉県副知事(後列左)とサポートランナーの草加市内小学生



▲松並木を走る第9スロットランナーの吉野克美さん

2日目 7月7日(水) 第2区間 走行距離 1.3km 聖火ランナー 6人

# 八潮市・三郷市 Yashio city & Misato city



●スタート:自動車販売店前/8:52～ ●ゴール:埼玉ダイハツ販売三郷店/9:11



Photo by Tokyo2020

▲第6スロットランナーの宗尾明子さん(右)と区間の最終ランナー工藤慧大さん(左)がトーチキス



草加流山線を一直線にリレーする八潮・三郷区間。スタート地点は八潮市の八条橋西側から。出発前には地元中学生が吹奏楽の演奏で盛り上げた。聖火は中川にかかる「八条橋」を渡って、吉川警察署前を通る。三郷市立北中学校吹奏楽部が応援する埼玉ダイハツ販売三郷店前でゴールした。



提供: 三郷市

▲工藤さんを迎えた三郷市の木津雅哉市長(左から2人目)



▲ランナーの到着を知らせるパートナー企業の特別仕様車



▲三郷市立北中学校吹奏楽部がゴール付近で応援する



提供: 八潮市

▲八潮市の大山忍市長(左)がスタート地点で清水さんを激励



▲スタート地点で八潮市立八条中学校生徒による吹奏楽演奏



▲第1スロットランナーの清水達夫さん

2日目 7月7日(水) 第3区間 走行距離 1.9km 聖火ランナー 9人

# 吉川市・越谷市 Yoshikawa city & Koshigaya city



●スタート:吉川駅北口交差点付近/10:04～ ●ゴール:ショッピングモール噴水広場/10:37



Photo by Tokyo2020

▲巨大ショッピングモールの横を走る第8スロットランナーの吉田オリガさん



▲トーチキスを待つランナーにエールを送る



▲沿道に手を振るパートナー企業の皆さん

吉川・越谷区間は、JR武蔵野線・吉川駅北口交差点付近からスタート。中川に架かる「吉越橋」を渡り越谷市へ入る。ゴール地点は全国的にも地名度の高い国内最大級のショッピングモールがある「越谷レイクタウン」。ショッピングモール内の噴水広場では、吉川・越谷の両市長が区間の最終ランナーを迎えるミニセレブレーションが行われた。



▲第1スロットランナーの戸張瑛仁さん



▲特別仕様車からランナーを応援



Photo by Tokyo2020

▲トーチキスでポーズをとる水落さん(左)と吉田さん(右)



Photo by Tokyo2020

▲第7スロットランナーの水落明さん



ミニセレブレーション

ゴールで区間の最終ランナーの間處陽子さんを迎えた越谷市の高橋努市長(左、当時)と吉川市の中原恵人市長(右)

2日目 7月7日(水) 第4区間 走行距離 13.8km 聖火ランナー 11人

# 秩父市・皆野町・長瀬町

Chichibu city & Minano town & Nagatoro town

●スタート:秩父神社 本殿前/11:11~ ●ゴール:長瀬駅前広場/13:14



Photo by Tokyo2020

▲秩父神社参道を秩父市内小学校児童のサポートランナーと走る第1スロットランナーの石渡翔唯さん



秩父市、皆野町、長瀬町は埼玉が誇る有数の景勝地で、旬の味覚や特産物が豊富な観光名所が数多く点在。秩父屋台囃子が鳴り響く秩父市の秩父神社で安全祈願をした後、サポートランナーとともに本殿前をスタートした聖火リレー。秩父駅では地元中学生の吹奏楽演奏が聖火の到着を盛り上げた。聖火はトーチからランタンに納められた後、ランナー、地元小学生とともに赤・緑・黒・黄・青の5色に塗装された電気機関車五重連で移動。皆野町の親鼻駅へ到着した。



Photo by Tokyo2020

秩父神社本殿前で、秩父市の北堀篤市長(左)らと第1スロットランナーの石渡さん(中央)



▲トーチの火をランタンに納め、5色の電気機関車で秩父駅から親鼻駅まで聖火を運ぶ第4スロットランナーの前野恵さん。



Photo by Tokyo2020

沿線で見送る人たちに、車窓から手を振って笑顔で応えた。



▲親鼻駅で鈴木さんと記念撮影をする皆野町の石木戸道也町長(右)



▲獅子舞で聖火ランナーを鼓舞 ▲秩父駅で応援演奏する秩父第一中学校吹奏楽部



▲親鼻駅を後に、沿道の幼稚園児の応援に応える第5スロットランナーの鈴木秀太郎さん



▲巧みに舟を操る船頭



▲電気機関車五重連が走る鉄橋の下を長瀬ラインくぐりてくる聖火

聖火はランタンから再びトーチに。長瀬ラインくぐりの出発地点である親鼻橋の乗船場へ向かった。前日の雨で運航が心配されたが、舟によるリレーは予定どおり実施。舟はみな親鼻河原を出発後、途中、船上でトーチキスを行い、国指定の名勝・天然記念物の岩畳にある船着き場へ。

舟を降りた聖火は県内唯一の観光地・長瀬町の土産物店が並ぶ商店街を抜けて、ゴールの長瀬駅前広場に到着。秩父地方の様々な魅力を世界に発信しながら、夏の秩父路を11人のランナーが駆け抜けた。



▲第8スロットランナーの相沢拓海さん(右)と第9スロットランナーの小林咲来さん(左)がトーチキスのポーズ



▲沿道の岩畳からランナーを応援する地元の皆さん



▲船上でトーチを握りしめ聖火を届ける小林さん



▲トーチを掲げ手を振る相沢さん



▲長瀬駅前商店街を駆け抜ける第10スロットランナーの四ツ谷愛里さん



▲長瀬駅で区間の最終ランナー山村誠さんを出迎えた長瀬町の犬澤タキ江町長

2日目 7月7日(水) 第5区間 走行距離 0.9km 聖火ランナー 5人

# 春日部市 Kasukabe city



●スタート:三枚橋会館前/13:14~ ●ゴール:新町橋(西)交差点/13:33



▲旧日光街道粕壁宿で聖火を運ぶ区間の最終ランナー石原保さん



春日部区間は県道さいたま春日部線を直進するコース。三枚橋会館前からスタート。旧日光街道粕壁宿を西へ進み、日光道中の道しるべ前や蔵造りの建物の前を通り過ぎると、市民の皆さんが太鼓で聖火ランナーの背中を後押し。宿場町の町並みの西端にあたる新町橋(西)交差点でゴールした。



▲太鼓で沿道から聖火ランナーを応援



▲第1スロットランナーの嶋先さんが第2スロットランナーの酒井藍莉さんにトーチキス



▲ソーシャルディスタンスを呼び掛け



▲春日部市に到着した聖火リレーの隊列



▲ゴール地点で春日部市の石川良三市長(左、当時)と記念撮影する石原さん



▲第1スロットランナーの嶋先麻美さん

2日目 7月7日(水) 第6区間 走行距離 1.3km 聖火ランナー 6人

# 杉戸町・宮代町 Sugito town & Miyashiro town



●スタート:杉戸町役場/14:25~ ●ゴール:東武動物公園駅東口/14:41



▲旧日光街道杉戸宿を走る第1スロットランナーの大橋裕美さん

杉戸町役場からスタートした杉戸・宮代区間。日本酒の酒蔵や古民家など宿場町の面影が残る旧日光街道を進み、本陣跡地前交差点を左折して、一本道の駅前通りを直進。地元の夏の風物詩「古利根川流灯まつり」でおなじみ大落古利根川に架かる「古川橋」を区間の最終ランナーが渡り、東武スカイツリーラインの東武動物公園駅東口ロータリーでゴールした。



▲スタート前に杉戸町役場で杉戸町の古谷松雄町長(左)が大橋さんを激励



▲最終確認をする消防隊員



▲区間の最終ランナー鈴木楓人さん



▲運営スタッフも綿密な打ち合わせをした



▲ゴール地点で鈴木さんを迎えた宮代町の新井康之町長(左から2人目)



▲復元された杉戸宿高札場も横断幕で装飾



渡嘉敷来夢さん 杉戸宿を駆ける

バスケットボール女子でリオ2016大会代表の渡嘉敷来夢選手=ENEOS=が旧日光街道杉戸宿を駆け抜けた。右膝を負傷した影響で残念ながら今大会の代表入りを逃したが「聖火ランナーという形で大会に参加できて大変光栄」と笑顔で話した。

2日目 7月7日(水) 第7区間 走行距離 2.8km 聖火ランナー 13人

# 久喜市・加須市 Kuki city & Kazo city



●スタート: 鷲宮神社 神楽殿前 / 16:00~ ●ゴール: 加須市川口コミュニティセンター / 16:33



Photo by Tokyo2020

▲第1スロットランナーの酒井園実さんが鷲宮神社本殿前から続く石畳を進む



久喜・加須区間は、県東部地区を代表する神社・鷲宮神社神楽殿前からスタート。鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』にも登場するなど歴史のある神社である。商店街を通過した後は、鷲宮総合支所前を曲がり、さくら通りから、ゴールの加須市川口コミュニティセンターへ向かった。



提供: 久喜市



▲警察車両が先導し安全を確認



▲専用送迎バスからスタート地点へ降り立つランナー



▲区間の最終ランナーの大谷貴子さん



▲歴史ある鷲宮神社前でランナーを応援した久喜市の梅田修一市長(右)



▲花咲徳栄高等学校による演奏



▲ゴール地点で加須市の大橋一市長(右)が笑顔で迎える

2日目 7月7日(水) 第8区間 走行距離 1.9km 聖火ランナー 7人

# 行田市 Gyoda city



●スタート: 大長寺前 / 18:03~ ●ゴール: 行田市郷土博物館前 / 18:18



▲「足袋蔵のまち行田」にふさわしい足袋シューズで走る区間の最終ランナーの川上新一さん



▲第1スロットランナーの由利貞男さん



▲沿道の拍手に応えるパートナー企業の特別仕様車

行田区間は、忍藩主阿部豊後守家の菩提寺で版画の御朱印が話題の大長寺前からスタート。県道熊谷羽生線を西へランナーが聖火をつないだ。行田市役所前を通り過ぎて、左手に映画「のぼうの城」で一躍全国区となった忍城(おしじょう)を眺めながら、城の本丸跡地へと向かう。跡地は周辺が城址公園として整備され、自然に囲まれた市民の憩いの場となっている。区間の最終ランナーは公園内の行田市郷土博物館前でゴールした。



▲トーチキスの後に思い思いのポーズをするランナー



Photo by Tokyo2020



▲駆け付けた沿道の人々にトーチをお披露目する第5スロットランナーの波田野拓さん



▲川上さんを迎える行田市の石井直彦市長(右)

2日目 7月7日(水) 第9区間 走行距離 3.1km 聖火ランナー 14人

# 熊谷市 Kumagaya city



●スタート:トヨタカローラ新埼玉熊谷中央店前/19:26~ ●ゴール:熊谷スポーツ文化公園にぎわい広場/20:27



▲ゴール地点の熊谷スポーツ文化公園にぎわい広場で行われた聖火の到着を祝うセレブレーション。2日目の最終ランナーの鈴木彩心さんが聖火に聖火を点火した。



ラグビーワールドカップ2019™日本大会の開催都市となり、世界中のラグビーファンにその名を知らしめたラグビーのまち熊谷市。スタートは、市街のトヨタカローラ新埼玉熊谷中央店前から。ここからラグビーロードを一路、北へ駆け抜ける。聖火ランナーにあてられた照明が暗闇に輝く中、熊谷スポーツ文化公園では、熊谷ラグビー場前から園内を東へ横断し、陸上競技場前のにぎわい広場でゴール。2日目を締めくくると盛大なセレブレーションも行われた。



▲スタート地点では熊谷市立富士見中学校吹奏楽部が熊谷市歌を演奏してランナーを鼓舞



▲新型コロナウイルス感染予防対策のため観覧は事前予約制



▲第1スロットランナーの多田優樹さん

## サッカー西野元監督とGK川島選手も



サッカー元日本代表監督でさいたま市出身の西野朗さん(右)、サッカー日本代表ゴールキーパーでさいたま市出身の川島永嗣さん(左)も熊谷区間の聖火ランナーに。西野さんは「地元埼玉で聖火を任せられ、ありがたく光栄」、川島さんは「一生に一度の経験でうれしい」と笑顔で話した。



▲公園内のラグビーボールのモニュメント前で地元県立熊谷工業高等学校ラグビー部OBで元日本代表の堀越正己さん(右)と第10スロットランナーの鈴木英秀さん(左)がトーチキス

## セレブレーション



聖火の到着を祝う熊谷市の富岡清市長(右、当時)と大野元裕知事(右から2人目)。サポートランナーの聖火ふたたび! 実行委員会の皆さんと記念撮影。

## トピックス

# 鋳物の街で作られた東京1964大会の聖火台

## 川口市の鋳物師が挑んだ聖火台作り

1964年10月10日、国立競技場の開会式で火をともされた聖火台。その製作に携わったのは、川口市の鋳物師、鈴木萬之助さんと文吾さん親子だった。

高度な技術が必要な上、納期と予算の厳しい条件に辞退者が相次ぐ中、「生涯最後の仕事」として製作を引き受けた萬之助さん。心血を注ぎ作業を進めていたが、湯入れの際、想定以上の溶湯(溶かして液体状となった金属)の圧力から鋳型が壊れ失敗してしまった。その心労で寝込んでしまった萬之助さんが急逝。納期に間に合わせるためその後も作業に没頭し続けた文吾さんが、父の死を知ったのは葬儀の当日。自転車を飛ばして駆け付けたが目にしたのは、霊柩車が出ていくところだった。

その後、文吾さんをはじめとした4人の兄弟や地元の鋳物師たちが総力を挙げて見事完成させた聖火台は、1958年に東京で開かれたアジア競技大会のためのものだったが、親子の命懸けの話が知られ、東京1964大会の聖火台に採用された。



写真:アフロ

▲1964年10月10日の開会式で最終ランナー坂井義則さんが点火した聖火台



▲鈴木萬之助さん(右)と文吾さん(左)



▲青木町公園にある修復された第1号

## 修復された第1号

鋳型の破損で完成しなかった第1号は修復され、川口市青木町公園に設置されている。2021年7月6日、同公園で行われた県内のオリンピック聖火リレー出発記念式には、萬之助さんの四男、鈴木昭重さんが聖火ランナーとして参加した。(51ページに掲載)

## 川口に里帰り後、新国立競技場へ

旧国立競技場の建て替えに伴い、聖火台は2014年12月以降、東日本大震災の被災地を巡り展示された後、2019年10月、実に61年ぶりに川口市に里帰りを果たした。2020年3月15日までJR川口駅東口のキュボラ広場で展示された後、現在は新国立競技場の東側ゲート前に設置されている。



▲旧国立競技場の炬火台(東京1964大会の聖火台)設置記念式典(川口市・2019年10月6日)



写真:HIROYUKI OZAWA/アフロ

▲新国立競技場に展示された東京1964大会の聖火台

3日目 7月8日(木) 第1区間 走行距離 1.6km 聖火ランナー 9人

# 川越市 Kawagoe city



●スタート:川越城本丸御殿前/8:26~ ●ゴール:連雀町交差点/8:44



▲小江戸川越のシンボル「時の鐘」のそばを駆け抜けた第6スロットランナーの木村優衣さん



川越市は江戸時代に城下町として栄え、その名残は、度重なる大火に備えて建てた蔵造りの町並みで見られる。聖火は、川越城本丸御殿前で出発式を開催してスタート。川越市役所を右手に見ながら直進し、札の辻交差点を左折。小江戸・川越観光の中心、蔵造りの商家と「時の鐘」がそびえる一番街を走り抜けた。さらに左手に国の登録有形文化財に登録されている、埼玉りそな銀行川越支店蔵の街出張所の洋風建築を眺めながら、徳川家ゆかりの蓮馨寺(れんけいじ)前を通り、ゴールの連雀町交差点へ。9人のランナーは、江戸時代にタイムスリップしたような町並みを楽しみながら聖火をつないだ。



▲聖火ランナーが来ることを知らせるパートナー企業の皆さん



▲第1スロットランナーの富樫陽子さん



▲第7スロットランナーの渡邊由香さんと埼玉県有数の観光地・川越蔵造りの町並み

## 出発式



富樫さんや川越市内及び近隣自治体の小学生サポートランナーと記念撮影する川越市の川合善明市長(後列右から4人目)

▶川越藩火縄銃鉄砲隊もランナーを応援



3日目 7月8日(木) 第2区間 走行距離 2.6km 聖火ランナー 14人

# 鶴ヶ島市・坂戸市 Tsurugashima city & Sakado city



●スタート:広田橋交差点付近/9:53~ ●ゴール:坂戸市役所/10:25



▲第1スロットランナーの濱崎修人さん



▲スタート地点で鶴ヶ島市の齊藤芳久市長や同市イメージキャラクター「つるゴン」が濱崎さんを激励



▲濱崎さんのご家族もフラッグを掲げて応援



▲配布グッズのタオルマフラーを手に笑顔

鶴ヶ島市から坂戸市までの川越坂戸毛呂山線(県道39号線)を、14人のランナーがトーチを掲げ聖火をつないだ。スタートとなった広田橋交差点付近では、鶴ヶ島市長や市のイメージキャラクター「つるゴン」がランナーを激励。沿道に集まった市民も横断幕やうちわで応援した。大学やスーパーなどの商業施設が並ぶ賑わいあるコースを、ゴールの坂戸市役所に向け走行。坂戸市長らが区間の最終ランナーを出迎えた。



▲聖火を待つランナーに手を振る



▲ゴールの坂戸市役所前で坂戸市の石川清市長(左)と同市イメージキャラクター「さかろん」がお出迎え



▲区間の最終ランナー安藤隆仁さんがゴール地点の坂戸市役所へ向かう

3日目 7月8日(木) 第3区間 走行距離 13.4km 聖火ランナー 18人

# 本庄市・深谷市 Honjo city & Fukaya city

●スタート:はにぼんプラザ/11:10~ ●ゴール:深谷駅北口/13:34



提供: 本庄市

▲「はにぼんプラザ」で陸船車(復元)に乗って走行した第1スロットランナーの岩田朋之さん



本庄・深谷区間は自転車で聖火を運ぶ13.4kmのロングコース。ミニセレブレーションは本庄市の「はにぼんプラザ」で行われた。第1スロットランナーは、本庄市ゆかりの庄田門弥が発明した世界最古の自転車といわれる「陸船車(復元)」に乗って走行。コースの中盤「道の駅おかべ」の前後は、聖火を格納したランタンを自転車に取り付けて走行した。中山道の宿場町だった深谷市には旧商家や造り酒屋などが並び、ランナーは歴史が感じられる街中を駆け抜けた。ゴールの深谷駅では「近代資本主義の父」といわれ、NHK大河ドラマでも話題の渋沢栄一翁の像がランナーを出迎えた。



▲お揃いの法被を着て応援するサポートランナーの本庄まちNETの皆さん



提供: 本庄市

▲ビジョンカーの大型モニターで市内高校生がメッセージを披露



提供: 本庄市

▲ミニセレブレーションではBMXで活躍する本庄市立旭小学校の澤田菜奈さんを紹介



▲聖火をランタンに格納し自転車走行した第11スロットランナーの新井正人さん



Photo by Tokyo2020

▲沿道で応援する地元の園児

## ミニセレブレーション



提供: 本庄市

スタート前のミニセレブレーション。本庄市の吉田信解市長(左から2人目)、深谷市の小島進市長(右)、本庄市マスコット「はにぼん」らが岩田さんを激励



Photo by Tokyo2020

▲ランタンを自転車のハンドル前部に取り付けスタート



▲酒蔵前を進む第13スロットランナーの小林健作さん



▲万が一に備えて救急車も帯同



Photo by Tokyo2020

▲「道の駅おかべ」で、新井さん(左)から第12スロットランナーの小澤望さん(右)へ聖火の灯るランタンの受け渡し



Photo by Tokyo2020

▲トーチキスで2020ポーズをとる第17スロットランナーの小林正伸さん(左)と区間の最終ランナー栗原統さん(右)



▲深谷駅舎を背景に、ゴールした栗原さん(右から2人目)が深谷市長(左から2人目)、「ふっかちゃん」とフォトセッション



▲各ランナーをスタート地点に送迎する専用バス



▲JR 深谷駅前の渋沢栄一像

3日目 7月8日(木) 第4区間 走行距離 2.6km 聖火ランナー 11人

# 嵐山町・東松山市・滑川町

Ranzan town  
& Higashimatsuyama city  
& Namegawa town



●スタート:国立女性教育会館/13:45~ ●ゴール:つきのわ駅南口/14:16



▲第1スロットランナーの國峯清正さんと、おそろいのTシャツを着用した地元小学生サポートランナー



嵐山町から東松山市、滑川町を巡るこのコースは、国立女性教育会館をスタートし、比企丘陵を走る国道254号バイパスを經由して、滑川町の東武東上線・つきのわ駅南口までのコースで、11人のランナーが走った。スタート前のミニセレブレーションでは3自治体の町長、市長がランナーを激励。國峯さんと一緒に走るサポートランナー(嵐山町内の小学生)を、和太鼓の演奏とともに送り出した。ゴールのつきのわ駅では多くの地元住民が駅前ロータリーを囲み、区間の最終ランナーを温かく迎えてくれた。



ミニセレブレーション

提供:嵐山町

区間のスタート地点で(左から)東松山市の森田光一市長、嵐山町の佐久間孝光町長、滑川町の吉田昇町長(右)と記念撮影



▲ロータリーに並ぶ隊列。聖火をひと目みたいと地元の皆さんが集まった



▲第4スロットランナーの荒井ゆう子さんが雨に濡れた国道254号を進む



▲第6スロットランナーの内山明夫さん



▲区間の最終ランナー中村利治さん

3日目 7月8日(木) 第5区間 走行距離 2.3km 聖火ランナー 12人

# 鴻巣市・北本市

Konosu city & Kitamoto city



●スタート:鴻巣宿おとり公園/15:50~ ●ゴール:スーパーマーケット駐車場/16:19



▲中山道を進む第1スロットランナーの貝森公美さん



▲鴻巣市の原口和久市長(右)とメインキャラクター「ひなちゃん」も応援

鴻巣市は江戸時代に中山道の宿場町として栄え、「ひな人形の町」としても知られている。スタート地点となる鴻巣駅東口のおとり公園では鴻巣市長や、市内の和太鼓グループがスタートを盛り上げた。ランナーは老舗商店や人形店が立ち並ぶ中山道を南下。北本市のゴールにはパートナーブースが設置され、市民は写真撮影をしながらランナーを待った。雨が降る中、和太鼓が鳴り響き区間の最終ランナーがゴール。北本市長が出迎え、聖火の到着を祝った。



▲パートナー企業のフォトスポットで記念撮影



▲中山道を北本市へ南下する聖火リレールート



▲警察官も入念にコースをチェック



▲北本太鼓かばざくらがランナーを鼓舞



▲区間の最終ランナー山北陽子さんは「愛してる」サインで声援に応えた



▲山北さんを出迎えた北本市の三宮幸雄市長(左)

3日目 7月8日(木) 第6区間 走行距離 2.2km 聖火ランナー 11人

# 桶川市・上尾市

Okegawa city & Ageo city

桶川市・上尾市

●スタート:中山道パーキング前/17:26~ ●ゴール:北上尾駅入口交差点/17:54



▲中山道に残る土蔵造りの店蔵前を通過する第1スロットランナーの金子蒼良さん



桶川市、上尾市は中山道の宿場町。桶川には当時をしのぶ旅館や旧商家跡も残っている。桶川・中山道パーキング前では和太鼓が鳴り響く中、桶川市長の激励を受けて第1スロットランナーがスタート。雨が降りしきる中山道のコースを南下しながら、11人のランナーが聖火をつないだ。ゴールの北上尾駅前では、激しくなってきた雨の中を区間の最終ランナーが走り抜け、無事最後まで聖火を運んだ。上尾市長とともに上尾市出身の俳優・的場浩司さんが雨の中のゴールを称えた。



▲スタート地点でのフォトセッション。桶川市の小野克典市長(左から3人目)らと金子さん



▲沿道の応援に笑顔で手を振る区間の最終ランナーの永田実紀さん



▲県立伊奈学園総合高等学校吹奏楽部が演奏で応援



▲ゴール地点で聖火リレーを盛り上げた県立上尾高等学校吹奏楽部の演奏



▲組織委員会の関係車両



▲永田さんを囲む上尾市の畠山稔市長(右から4人目)とゲストの的場浩司さん(左から5人目)ら

3日目 7月8日(木) 点火セレモニー(さいたま新都心公園) 聖火ランナー 10人

# 川口市

Kawaguchi city

川口市

●点火セレモニー



▲点火セレモニーに参加した川口市のランナーの皆さんと川口市の奥ノ木信夫市長(左から3人目)



埼玉県内の聖火リレー初日、第1区間の川口市は当初、川口市青木町公園で出発式を行った後、10人のランナーによる聖火リレーが行われる予定だった。新型コロナウイルス感染拡大に伴うまん延防止等重点措置の対象区域に指定され公道走行を中止したため、出発記念式だけの実施となった。

その代替措置として、埼玉県のオリンピック聖火リレー最終日にゴール地点のさいたま新都心公園で一人約10mずつを走って聖火をつなぐ点火セレモニーを行った。



▲点火セレモニーを行う花道でランナーが準備



▲鈴木昭重さん



▲内田剛史さん(左)と相原翼さん(右)



▲平林栄子さん

3日目 7月8日(木) 第7区間 聖火ランナー 23人

さいたま市 Saitama city

●点火セレモニー



▲埼玉県選出のランナーの皆さん

最終日最終区間のさいたま市は、当初、大宮氷川神社本殿前をスタートし参道を抜け、さいたま新都心公園までの約3.4kmのリレーを予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴うまん延防止等重点措置の対象区域に指定され公道走行を中止したため、ゴール地点での点火セレモニーのみの実施となった。



▲丸山恵美子さん



▲渥美幹心さん



▲藤井愛莉さん



さいたま市を走行予定だったランナー23人は、会場の花道を一人約10mずつ走って聖火をつないだ。最後にグループランナーの具志堅美咲さんが代表して聖火皿に火をともし、3日間で70.5km、274人がつないだ聖火は、最終ゴールまで無事到着した。この後、聖火は最終開催地の東京都へ送り出された。

◀式典に出席した(左から)大野元裕知事とさいたま市の清水勇人市長



▲パートナー企業のPRブース



▲最終ランナーと大野知事、清水市長、サポートランナーの皆さん



▲息の合ったダンスを披露したさいたま市立大宮北高等学校ダンス部



▲さいたま市立浦和南高等学校バトン部の華麗なパフォーマンス

グループランナー「TEAM SAITAMA PRIDE」



▲佐藤美心さん



▲戸田悠音さん



▲小林心咲さん



▲浦田優斗さん



▲具志堅美咲さん



▲加藤三重子さん



▲スコット・イアンさん



▲椎名正幸さん



▲和井田正幸さん



▲阿部ゆかりさん

## トピックス

### 聖火リレートーチ

東京2020聖火リレートーチは、日本人に最もなじみ深い花である桜をモチーフとしている。オリンピックトーチの色は「桜ゴールド」、パラリンピックトーチの色は「桜ピンク」。トーチを上部から見ると桜の形をしており、5枚の花びらから生まれた炎がトーチ中央でひとつになる設計となっている。トーチの素材の一部には、東日本大震災の復興仮設住宅のアルミ建築廃材を再利用。人々の生活を見守ってきた仮設住宅が、平和のシンボルとしてトーチに姿を変え、一歩ずつ復興に向けて進む被災地の姿を世界に伝える。



▲オリンピックトーチ(上部)



▶オリンピックトーチ

Photo by Tokyo 2020

◀パラリンピックトーチ

Photo by Tokyo 2020

#### トーチの仕様

全長：710mm  
本体重量：1.2kg  
(本体約1kg+燃料部200g)

色：桜ゴールド  
(オリンピックトーチ)  
桜ピンク  
(パラリンピックトーチ)

主な素材：アルミニウム  
(仮設住宅の再生アルミニウム  
約30%を含む)

### 聖火ランナーユニフォーム

#### オリンピック聖火ランナーユニフォーム

東京2020オリンピック聖火ランナーのユニフォームは「Hope Lights Our Way(英語)/希望の道を、つなごう。(日本語)」というオリンピック聖火リレーのコンセプトに基づき、リレーらしさ、日本らしさとともに、東京2020大会との連続性を重視してデザインされている。シャツの左肩から右腰にかけては、日本発祥の駅伝などで用いられる「たすき」をモチーフとした赤いラインがあしらわれており、日本らしさと聖火リレーに対する敬意と大会への祈念が込められている。



Photo by Tokyo 2020



Photo by Tokyo 2020

#### パラリンピック聖火ランナーユニフォーム

パラリンピック聖火ランナーのユニフォームは「Share Your Light(英語)/あなたは、きっと、誰かの光だ。(日本語)」というパラリンピック聖火リレーのコンセプトに基づき、日本全国から集められる聖火がつながっていく様子と、「3人1組のランナー」で集結していく想いや熱意が途切れることなくつながっていくことを縁起物の市松模様によって表現している。



Photo by Tokyo 2020



Photo by Tokyo 2020

## 東京2020パラリンピック聖火フェスティバル

17市町村でおこした火を3人1組でつなぐ

パラリンピック発祥の地、イギリスのストーク・マンデビルと日本各地でおこした火を一つに集めて行うパラリンピック聖火リレー。オリンピック終了後の2021年8月12日から47都道府県で採火がスタート。競技会場のある1都3県で聖火リレーを行った後、開催都市である東京都で全ての火が一つに統合され、「東京2020パラリンピック聖火」となり大会期間中、聖火台にともされた。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、静岡県第3区間を除き、公道での聖火リレーが中止となり代替措置が行われた。

#### コンセプト

### Share Your Light

あなたは、きっと、誰かの光だ。

#### スケジュール



8月19日に行われた埼玉県のパラリンピック聖火リレー。県内17市町村で趣向を凝らしておこした火を一つに集めて「埼玉のパラリンピック聖火」が誕生し、134人の聖火ランナーがつないだ。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令を受け、県内全5区間(幸手市・蓮田市・白岡市・川島町・入間市・朝霞市)で公道走行を中止したが、朝霞中央公園陸上競技場のトラックを走行する代替措置を行った。

#### パラリンピック聖火フェスティバルの実施概要

採火式	パラリンピック発祥の地、イギリスのストーク・マンデビルと日本国内846の自治体により採火。県内では17市町村で採火した。	 ▲採火式(飯能市)
集火式(県内)	県内各地でおこした火を一つに集め「埼玉のパラリンピック聖火」をつくるセレモニー。	 ▲集火式
聖火ピジット	「埼玉のパラリンピック聖火」はランタンに分火され、県内43市町で展示された。	 ▲聖火リレー
聖火リレー	競技会場のある1都3県(東京都、埼玉県、千葉県、静岡県)で実施。原則、初めて出会った3人がチームとなり、聖火リレーを行った。	 ▲聖火リレー
出立式	埼玉県の聖火リレーを終えた「埼玉のパラリンピック聖火」を東京都へ送り出した。各地から集まった火が、東京都で一つになり、「東京2020パラリンピック聖火」として大会期間中に聖火台にともされた。	 ▲出立式